

未来の自分を見据えて 「令和元年度インターンシップ」を実施



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）新発田駐屯地援護室（室長 1陸尉 川ノ口竜男）は、2月19日（水）新潟市内において「令和元年度インターンシップ」を実施しました。

これは、業務管理教育を終了した若年定年退職予定隊員が就労体験を通じ、再就職先となる職域選択の拡大やミスマッチによる早期離職防止を図ることを目的に、昨年度から各地方協力本部計画で実施しているものです。また、受け入れ企業に対し退職自衛官雇用の有用性を周知することも目的としています。

今回のインターンシップは、物流・食品事業を行っている「シュタープ株式会社」（新潟市北区）にご協力いただき、運輸業、卸販売業に興味を持つ4名（相馬原・高田・新発田各駐屯地所属）の隊員が参加しました。



当初、隊員達は同社社長から主要事業の概要や社員の一般的業務（1日の流れ）の説明を受けました。その後、隊員達は自衛隊を昨年定年退官し同社に入社した 福島清行氏（新発田駐屯地OB）より、自身の再就職に際しての体験や、仕事に対する心構えについて話を聞きました。



続いて行われた業務体験では、隊員達は荷物の置かれた倉庫へ移動し、コンテナの仕分け・積み込み作業等を行いました。その際、福島氏から「生産者様の思いが詰った商品なので、ただ運ぶのではなくお客様にしっかり『届ける』という気持ち」が大切であるとの説明を受け、隊員達も一つ一つ丁寧な作業に努めていました。



インターンシップ終了後、参加した隊員からは「民間企業が働き手に何を求めているかがよく理解できた」「お客様から信頼されるために、日頃から仕事に対する心構えを持つことが大切であることが分かった」等の感想があり、未来の自分を見据える良い機会となりました。

新潟地本は、今後も県内企業との協力関係を築き、定年退職予定隊員が将来設計を推進できるような教育環境を準備し、安心して勤務・訓練に集中できるよう支援していきます。